

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900406		
法人名	合同会社Maa3's		
事業所名	オリヴィエ東山		
所在地	西宮市東山台1丁目5番地		
自己評価作成日	2024年3月6日	評価結果市町村受理日	令和6年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和6年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様、ご家族様の思いに寄り添い、心のこもった支援を実施。 ・地域との連携をとり、地域の資源になる施設作り。 自然豊かな西宮市の北部に立地しており、近くにコンビニやスーパー等の商業施設があり、JR福知山線名塩駅から徒歩で約10分と立地の良い場所です。しかし、施設からは六甲山が見渡すことができます。とても落ち着いた雰囲気の中で生活することができます。 また、食事やおやつを施設内で職員が手作りにして提供しています。利用者様にも出来ることは手伝っていただき、アットホームな雰囲気の施設を目指しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かで眺望がよく、公園が隣接し、駅・コンビニ・スーパーが近く生活に便利な環境にある。地域のバザーやお祭りへの参加・近隣施設との連携と交流・共用型通所介護サービスの併設等により、事業所と利用者が地域とのつながりを持てるよう取り組んでいる。地域からの利用者・家族・職員が多く、職員の定着も良く、地域密着型サービスとして馴染みの関係づくりが行えている。季節感・行事食・利用者の希望を取り入れて献立作り・手作り調理を行い、インスタグラムでも日々紹介している。花壇や家庭菜園を活用して園芸活動を行い、季節の行事、日々のレクリエーション、家事参加等により、利用者が楽しく活動的に過ごせるよう努めている。理学療法士・鍼灸師・柔道整復師等の専門資格を有する職員体制があり、かかりつけ医・訪問看護師等とも連携している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのホールに掲示している。利用者様に寄り添い気づき、その人らしい暮らしが出来るように取り組んでいる。	事業所独自の理念・基本方針を作成し、各ユニットのホールに掲示し、職員が日々目にして共有できるよう取り組んでいる。基本方針に「地域との連携をとり、地域の資源になる施設づくり」という地域密着型サービスとしての意義を表している。理念をもとに、利用者・家族に寄り添い、個別支援に取り組んでいる。	理念の実践に向けた具体的な取り組みとして、職員と共に実践状況を振り返る機会を定期的に設けてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や近隣施設の催し物(バザーやお祭り等)に参加している。	近隣の公園への散歩・コンビニへの買い物・花見・自治会の祭りへの参加・社会福祉協議会のバザーへの参加等を再開し、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう取り組んでいる。近隣の障がい者就労支援センターとの交流(週1回のシーツ交換・菜園での収穫体験)、陶芸講師・リハビリ体操講師の受け入れ、AED設置等の地域交流・地域貢献も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会の開催する認知症の勉強会に参加し、認知症の方との関わり方などを共有している。		

オリヴィエ東山

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットや事故報告の報告をして、再発防止や対応策への意見をもらい、職員間で共有している。	利用者・家族代表・地域代表・知見者・市の権利擁護支援員・事業所職員を構成委員として、2ヶ月に1回開催している。令和5年度は7月は書面会議、それ以外は集合会議として開催している。開催時には、利用者・職員状況、活動、行事、事故・ヒヤリハット、地域交流の状況等を報告し、意見交換を行っている。集合開催できない時は、案内文・資料・返信用紙を郵送し、返信内容を「運営推進会議議事録」に記載し共有している。運営推進会議議事録の公開ファイルを、2階エレベーターホールに設置して公開している。今後、1階玄関にも設置する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	頻回ではないが必要があればケアの取り組みに関しての意見を頂いている。	運営推進会議に市の権利擁護支援員の参加があり、市と連携している。利用者支援・算定関連等に関して判断に迷う事があれば、市の窓口主に主で電話で問い合わせ適正な運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の身体拘束に関する勉強会を開催している。	「身体拘束適正化のための指針」を作成し、身体拘束をしないケアを実践している。3ヶ月に1回「虐待・身体拘束防止委員会」を開催している。委員会には、管理者・計画作成者・当日出勤職員が参加し、拘束事例なしの確認、センサーの適正使用等についての検討を行っている。「年間研修スケジュール」に沿って年2回、動画視聴による勉強会を実施し、職員は各自で受講し「研修報告書」を提出している。安全上、玄関・各フロアの扉は施錠しているが、希望があれば外気浴や散歩に出かけ、利用者が閉塞感を感じないように支援している。	議事録の回覧印など、委員会の議事録内容の周知が明確になる工夫が望まれる。また、委員会では、スピーチロックや不適切ケア防止を議題とし、未然防止に向け検討してはどうか。

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の虐待防止のための勉強会を開催している。	「虐待防止」についても、上記と同様の方法で年に1回研修を実施し、「虐待・身体拘束防止委員会」を実施している。職員の定着が良く、相談しやすく、協力が得やすい職場環境作りに努め、希望に応じてシフト調整も行い、職員のストレスや不安が利用者のケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の勉強会を開催したり、外部の勉強会に参加している。	管理者が、権利擁護の制度に関する外部研修(オンライン)に参加し学ぶ機会を持っている。開設以来、成年後見制度等権利擁護に関する制度の利用事例はない。今後、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり関係機関と連携して対応することとしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、契約書をご利用者様とご家族に説明して同意を得ている。	入居相談・入居希望があれば見学対応し、生活環境を見てもらい、パンフレット・料金表等に沿ってサービス内容や料金等を説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って、質問に答えながら丁寧な説明に努めている。特に、加算など料金については詳細に説明し、納得が得られるよう努めている。契約内容に変更が生じた場合は、書面送付により通知している。	

オリヴィエ東山

自己 第3者	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのケアに関する連絡を密に行い、要望や意見を聞いている。外部への相談は重要事項説明書に市や第三者の相談窓口を記載し周知している。	利用者の意見・要望は日々の会話の中から把握に努め、食べたい料理があれば随時献立に反映している。家族の面会を再開し、面会時に利用者の近況を伝え、意見・要望の把握に努めている。毎月写真を掲載した「オリヴィエだより」を郵送し、インスタグラムやラインを活用して、行事や利用者の様子を伝え、家族の意見・要望が出やすいように努めている。家族からの要望や連絡事項等があれば、システム内の「申し送り」で共有し個別に対応している。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、外部者に意見を表せる機会を設けている。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝と夕の申し送り時に運営方針についても必要があれば聞き入れている。	毎日の朝・夕の申し送り時に、利用者や業務についての情報共有や検討を行い、必要に応じて内容をシステム内の「申し送り」「ヒヤリハット」等で共有している。必要時には随時、当日出勤の職員でミニカンファレンスを行い、システム内の「ミニカンファ」で共有し利用者のケアや業務に反映している。施設長・管理者が随時相談対応する体制があり、職員の意見・提案等を個別に聴く機会を設けている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当、資格手当、職能給等の手当を付けて保有資格や勤務状況で昇給されるようにしている。また、資格の取得にもシフト調整や費用の負担をしている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の講習などは勤務時間として扱い、費用の負担もしている。		

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議で施設間の情報共有している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、ご本人や施設の職員、ご家族様から情報を得るようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面会時や、電話での相談で困りごとや不安なことを聞き取り当施設でできることや対応方法を伝えている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活での困りごとなどを家族等から情報を得たり、ご本人の様子や聞き取りで		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、料理等で出来る事を手伝っていただき役割を持ってもらうように支援している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	課題については職員だけではなく、ご家族様にも積極的に意見を聞き取り、ご利用者様の気持ちを汲み取り、共有しながら支援をしている。		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙などのやり取りを出来るように支援している。	家族・友人・知人との面会を再開し、居室やホールでゆっくり過ごせるように配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。近隣からの入居が多いため、家族・友人・知人の来訪が多い。家族との外出・外泊・外食も再開し、自宅・馴染みの店等への外出を支援している。事業所としても、日常的な外出や外出行事で馴染みの場所を訪れる機会がある。電話・年賀状・暑中見舞い・手紙での馴染みの関係継続も支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	週に2～3回は全利用者様でリハビリ体操に参加できるように支援したり、お誕生日会を開催して全員でお祝いできるようにしている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終わった後もご家族様からの相談に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23		(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で得た情報を職員にも周知してケアプランの中にも取り入れている。	入居前の介護支援専門員等からの情報や、利用者・家族との入居前面談時の聴き取り(センター方式を活用)等から、生活歴や生活環境・趣味・嗜好等の把握に努めている。把握した内容を「介護サマリー」の生活欄に記録し、介護計画や支援に反映している。入居後は日々の会話で利用者の思いや意向を把握し、介護記録アプリの「ケース記録」に記録し、「申し送り」で共有している。把握が困難な場合は表情や反応から推測し、家族の意見や情報も参考にして把握に努めている。	

オリヴィエ東山

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からの聞き取りを行って、これまでの暮らしの把握をしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態変化をケース記録に残し、カンファレンスを行っている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、日々のケース記録をもとにしてケアプラン作成を行っている。	入居前情報、入居前面談での聴き取り(センター方式を活用)、「私の暮らし方シート」(家族記入)、「介護サマリー」(基本情報・ADL・生活歴・生活状況等を記載)もとに、初回の介護計画を作成している。サービスの実施状況は、ケア記録アプリに記録している。定期的には3ヶ月毎に「モニタリングシート」でモニタリング・評価を行い介護計画を見直している。計画見直し時は、利用者・家族の意向やかかりつけ医等の意見を集約し、職員カンファレンスで検討し次の介護計画に反映している。	・介護計画の長期目標・短期目標の期間設定と目標内容の検討が望まれる。 ・介護計画の内容を周知し、計画に基づいたの実施状況を記録に残す工夫が望まれる。 ・計画見直し時は、再アセスメントとカンファレンスの実施が望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常生活に関することも記録して申し送りにて情報共有を行い、ケアプランの見直しが行いやすいようにしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いを行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園やコンビニに散歩や買い物に行けるように支援を行っている。		

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診をしてもらっている。歯科も毎週の往診あり。	入居時に事業所の医療連携体制を説明し、かかりつけ医を確認している。協力医療機関による2週間に1回内科(整形外科)の往診、希望に応じて週1回訪問歯科を受けられる体制がある。他科については外部受診とし、基本的には事業所職員が医師の紹介状を持って同行して説明を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。必要時は家族が同行している。往診時は紙ベースの「往診記録」に利用者の状態等事業所から医師に伝えたいこと・医師の所見や結果を記録し、システム内にも記録し、朝夕の申し送りで伝達している。システム内の「お薬手帳」で薬局と連携を図り、外部受診についてもシステム内の「外部受診記録」に記録し、経過や受診結果等を情報共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の往診が無い週は看護師がきてくれて体調のチェックを行ってくれている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診の先生と入院先の先生と連絡を取り合い積極的な情報共有をして早期に退院出来るように取り組んでいる。	入院時には事業所職員が同行し、「介護サマリー」で情報提供している。主治医と入院先の医師が積極的に情報共有して連携し、事業所は医療連携室と電話で連携を図り、早期退院に向け支援している。入院中・退院前の情報は、システム内の「ケース記録」に記録し共有している。退院時には「看護サマリー」「診療情報提供書」等の提供を受け、介護計画の見直しを行い、退院後の事業所での支援に活かしている。	

オリヴィエ東山

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時に当施設の終末期のケアの方針を説明して同意を得ている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、重度化・終末期に向けた事業所の方針を利用者・家族に説明し、指針に対する同意を書面で得ている。主治医が看取りの段階と判断した時点で、主治医から家族に説明し、意向確認を行っている。看取り介護の希望があれば、看取り計画を作成し、主治医・訪問看護師・薬局・事業所職員が連携し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。システム内の「看取り情報」に診療日・医師の判断・家族の同意・看取り計画を、「ケース記録」に支援実施内容を時系列で記録している。	「年間研修スケジュール」にターミナルケアに関する研修を組み込み、看取りについて学ぶ機会を設けることを期待する。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。緊急時の対応について手順書を定めて行動できるように努めている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回行っている。	令和5年度は3月・10月に昼間想定消防訓練を実施している。出勤職員が避難経路・避難場所を確認し、実際に利用者参加のもと、避難場所(2階はベランダ)まで避難誘導を行っている。3月同日には地震訓練も実施し、非常用発電機の使用・プロパンガスの接続方法等も確認している。実施後に「消防訓練報告書」を作成し、職員に周知を図っている。職員がまんべんなく訓練に参加できるよう、シフト調整を行っている。水・食料等は各階の床下に、カセットコンロ・懐中電灯・おむつは1階収納庫に保管し、ローリングストックで各担当者が管理している。	夜間想定訓練も実施することが望まれる。また、全職員に「消防訓練報告書」を回覧し、回覧印等で周知を明確にする工夫が望まれる。

自己 者第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を実施して人格の尊重、プライバシーの保護に努めている。	「年間研修スケジュール」に沿って、「プライバシー保護の取組」「認知症及び認知症ケア」「身体拘束・虐待」に関する動画視聴研修を実施し、利用者尊重・誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉かけについて周知を図っている。研修後は各自研修報告書を作成し提出している。肖像権については、契約時に「個人情報の使用に係る同意書」の中で同意を得ているが、ホームページ・パンフレット・Instagram等への掲載は、なるべく顔が映らないよう配慮している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事やイベント毎に参加の意向を聞いて意思決定を促している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間から就寝時間まで、各自のペースになるべく合わせた支援を行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様にも好みを聞いて服を用意して貰ったり月に1度の訪問美容ではカラーやパーマもして頂けるようになっている。		

オリヴィエ東山

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	入居者様の希望をきいて献立作りを行い、 調理も一緒に手伝ってもらうように支援して いる。	利用者の希望を採り入れて献立を作成し、食 材を発注し毎食手作りの食事を提供してい る。利用者個々の状況・病態に応じて、ミキ サー食・ペースト状・刻み食等、食事形態に 対応している。節句・行事食を取り入れ、食 器・盛り付け・彩りにも配慮し、季節感が楽し めるよう工夫している。誕生日にはフロア合 同誕生会を開催し、手作りケーキでお祝いし ている。利用者の好みや力を活かして、テー ブル拭き・調理・配膳・食器洗い等に参加で きるよう支援している。おやつレクリエーショ ンではかき氷・ベビークースターを作り、また毎 年らっきょう漬け・味噌づくり・干し柿づくり等 を行い、利用者も一緒に体験できる機会を設 けている。食事・おやつ・行事の様子をインス タグラムで紹介し、家族にも伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録に残して食事 量や水分摂取量の低下が無いように配慮し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎晩の義歯の洗浄や口腔ケアが難しい方 にはスポンジ歯ブラシでの口腔ケアを行っ ている。		

オリヴィエ東山

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をとり、その方の排泄パターンを分析して声掛けを行うようにしている。	排泄については、ほぼ自立からベッド上での介助まで個人差があり、介護記録アプリの「排泄記録」で利用者の排泄状況・排泄パターンを把握している。基本的には日中はトイレでの排泄ができるよう声かけ誘導・介助を行い、立位困難な場合はベッド上でのおむつ交換を行う等、利用者の状態に合わせて支援している。夜間は安眠に配慮し、個別に対応している。介助方法や排泄用品の使用について検討事項があれば、朝・夕の申し送り共有し、介護記録アプリの「ミニカンファレンス」に検討内容・経過・結果を記録し、現状に即した支援につなげている。誘導時の声かけ、おむつ交換時や排泄時はドアやカーテンの開閉に配慮する等、利用者のプライバシーや羞恥心への配慮を周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトやフルーツを提供して腸内環境を整えとともに、記録アプリを使用することで排便が3日間ないと警告されるようになっている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせた入浴の頻度で無理の無いように入浴して頂いている。	週3回の入浴を基本とし、利用者個々の体力・体調・希望等に応じて柔軟に対応し、介護記録アプリの「入浴記録」で実施状況を把握している。1階には3方介助の浴槽を設置し、利用者の状況に応じて浴室を選択し、2人介助・シャワー浴・足浴・清拭等、利用者のADLに応じて安全に清潔保持ができるよう取り組んでいる。同性介助の希望には同性で対応し、入浴拒否のある場合は日時や職員を変更する等、工夫して対応している。一人ずつ湯を入れ替え、希望に応じてゆず湯や入浴剤を使用する等、個々のペースでゆったり入浴が楽しめるよう支援している。	

オリヴィエ東山

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は決めておらず、個々の今までの生活習慣を尊重している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携で薬の情報がケア記録アプリで閲覧できるようになっており、症状の変化についても記録として残し主治医や薬剤師と共有している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは体操やゲームだけでなくゴルフや卓球といった軽い運動も取り入れている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出支援として入居者様の希望を取り入れた外出を行っている。	利用者個々の希望や天候に応じて、散歩・近隣公園への外出・コンビニへの買い物・就労支援施設の畑の菜園活動等に外出できるよう支援している。ベランダや事業所敷地内での外気浴・洗濯物干し、家庭菜園の水やりや収穫等、戸外に出て気分転換できる機会を設けている。また、気候の良い時期には公園でお花見をする・駐車場にテーブルを設置してお茶会をする等、戸外で楽しむ機会づくりにも取り組んでいる。家族と連携し、家族との外出や外食に出かけられるよう支援している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望があれば現金の所持が出来るように支援している。また近くのコンビニやスーパーへの買い物も同行して支援している。		

オリヴィエ東山

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持や電話を掛ける際の支援を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファや簡易的な畳みスペースを置いて横になったりして寛げるようにしている。	共用空間は開放的で大きな窓からの採光があり明るく、家具や扉は木調で落ち着きと温かみを感じられる。温湿度管理、定期的な換気、消毒、抗菌モップ・除菌タオルによる清掃等により衛生管理を行っている。壁や廊下には利用者と共同製作した季節や節句の作品が飾られ、季節感が感じられる。テーブル席・ソファ席・畳スペース等があり、思い思いにくつろげる環境を整備している。キッチンから調理の匂いや音も感じられ、利用者も食器洗い・テーブル拭き・洗濯物干し・洗濯物たたみ等の家事に参加し、生活感を取り入れている。レクリエーションとして体操・唱歌・パターゴルフ・卓球・音楽療法・陶芸リハビリ等を取り入れ、共用空間のベランダで家庭菜園も行う等、毎日楽しめる機会づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の場所を工夫したりして居心地よく過ごせるようにしている。		

オリヴィエ東山

自己 第3者	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている ベッド以外のタンスや椅子等の家具は使い慣れたものを持参して頂くようにしている。	各居室は広めの空間で大きな窓からの眺望も良く、明るく開放的で、ゆったり過ごせる環境である。ベッド・クローゼット・カーテン・エアコン等が設置されている。ソファ・椅子・箆笥・鏡台など使い慣れた家具や、テレビ・冷蔵庫などの電化製品、家族写真・ぬいぐるみ・趣味の道具類(貼り絵・絵具)・仏壇など馴染みのものが持ち込まれている。入り口に表札や作品を飾り、希望に応じて暖簾を設置し、部屋間違いの防止やプライバシーにも配慮している。利用者のADLに合わせてベッドの向きや家具の配置を調整し、安全な動線を確保している。家族と協力し、衣替えや環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している 車いすや歩行が困難な入居者様には居室からトイレや浴室の動線に障害が無いように配慮したり食席の場所も工夫している。		